歴史散歩

れきしさんぽ No.40

眞木和泉守

眞木和泉守銅像（水天宮境内）

九州筑後の生んだ幕末志士眞木和泉守保臣は、日本の幕末維新史に欠かせない傑出した人物です。討幕のために挙兵して蛤御門の変に敗れ、逃れて天王山で自刃するという、いわば人生のクライマックスに注目が集まりますが、文武に優れ、広い知識と深い教養を備え、家族思いの人物でもありました。今回は、和泉守の人柄や魅力に触れながら、その一生をたどり、市内に残るゆかりの地を紹介します。

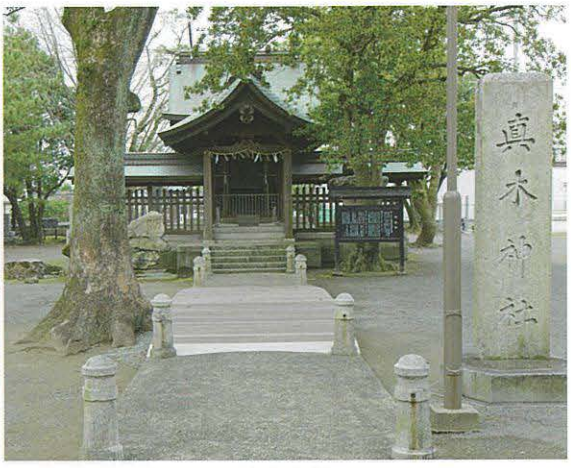
＊眞木和泉守保臣は、「従五位下和泉守」の官位を受けるのは20歳の時ですが、ここでの呼称は、一般によく知られている「和泉守」に統一します。

■生誕とその時代■

和泉守は、文化10年（1813）に、代々、水天宮の神職を務めた眞木家の長男として生まれました。江戸幕府徳川将軍は11代家斉、久留米藩主有馬家は９代頼徳、国学・洋学が盛んになり、尊王論や海防論などの政治・社会思想が発達してきた化政文化の時代です。和泉守は、11歳で父旋臣を亡くし、第22代神官となりました。家職を務めながら、文武の道に精進し、学問・教養を深め、藩校明善堂では優れた成績を修めました。

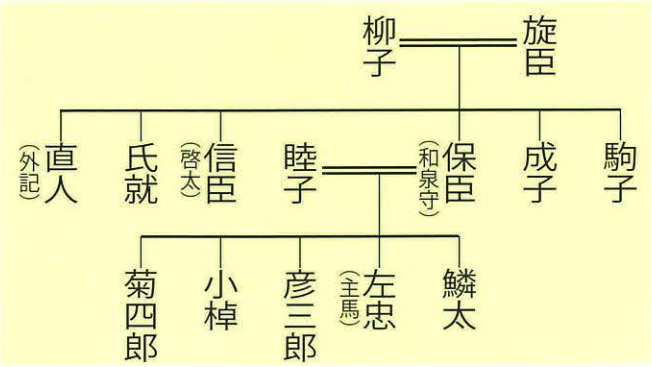
水天宮　水天宮は建久元年（1190）に創建され、慶安３年（1650）に久留米藩２代藩主有馬忠頼が社地・社殿を寄進し、現在の地に遷されました。天御中主神・安徳天皇・高倉平中宮・二位の尼を祭神とします。境内にある真木神社では、和泉守の命日７月21日に例祭が行われています。また、毎年８月下旬には、弓術の達人でもあった和泉守に因んで、その号「紫灘」を冠した「紫灘旗全国高校遠的弓道大会」（全国高校選抜弓道大会）が開催されます。

水天宮本殿



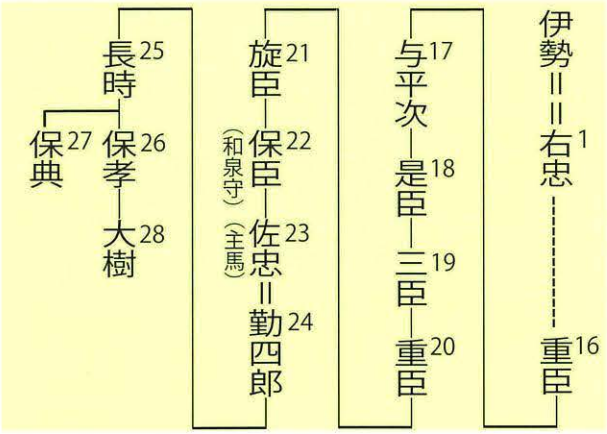
眞木神社

眞木家の系譜　眞木家は、大和国石上神社（現奈良県天理市）の神官某の娘伊勢を始祖とします。伊勢は建礼門院（徳子）の入内とともに宮中に入り、按察局と称します。平家滅亡の際、安徳天皇以下一門の跡を弔うため、壇ノ浦から下って筑後川河畔の鷺野原に至りました。その後、肥後に逃れていた平知盛の孫・右忠が伊勢の養子となり、平氏の血脈を伝えることになったといいます。伊勢は鷺野原に平家一門を祀り、これが水天宮の創始といわれます。



眞木和泉守の家族

眞木和泉守の家族　和泉守は、水天宮第21代宮司旋臣の長男として生まれました。母は、三潴郡下田村（現城島町）の中村茂平次の娘柳子です。天保２年（1831）、和泉守は瀬下庄屋町浪人石原与左衛門の娘で、久留米藩士粟生一左衛門の養女睦子と結婚します。和泉守 19 歳、睦子 28 歳でした。５人の子をもうけ、２人を早くに亡くしますが、次男主馬は家督を継ぎ、四男菊四郎は父を助け、愛娘小棹は大正 14 年まで生き、和泉守にまつわる談話を残しました。



和泉守の系譜

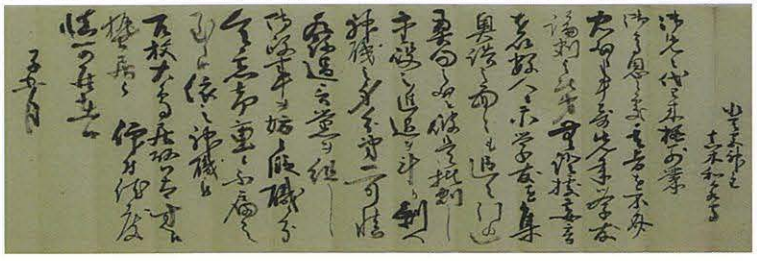
瀬下町の眞木家墓所

■藩政の舞台へ■

和泉守は、32 歳の時に水戸へ遊学し、会沢正志斎から水戸学（天保学）の尊王攘夷思想の影響を受け、帰国して天保学連という一派を結成しました。天保学連は、若き 10 代藩主有馬頼永の下に改革の機運を高めようとし、和泉守は頼永に改革の意見書を提出します。しかし、在任３年目にして頼永は病没、前後して天保学連は内部の確執によって分裂しました。その抗争は、嘉永の大獄という大事件に発展し、和泉守も処分を受け、幽閉されることになります。

有馬頼永（1822–1846）　９代藩主頼徳の４男として生まれ、16 歳の時に薩摩藩９代藩主島津斉宣の娘晴姫と結婚します。父の死去に伴い、弘化元年（1844）６月、23 歳の時に藩主に就任し、天保学連の村上守太郎・野崎平八・今井栄らを重用しました。幼少から聡明で、藩主就任当初から藩政改革に着手し、水戸の徳川斉昭からも一目置かれていましたが、25 歳の若さで病没しました。

有馬頼咸（1828–1881）　頼徳の７男として生まれ、弘化３年（1846）に兄頼永の死去に伴い、11 代藩主に就任しました。有栖川宮韶仁親王の娘で 12 代将軍徳川家慶の養女精姫を正室に迎えます。頼咸の就任前に、弟富之丞を藩主に推す動きがあり、天保学連の一部にこの嫌疑がかけられ、水野丹後（正名）・和泉守らに処分が下される嘉永の大獄となりました。


眞木和泉守蟄居達写（久留米市教育委員会所蔵）

山梔窩（くちなしのや）　和泉守は、弟啓太（信臣）がいる水田（筑後市大字水田）の地で、謹慎生活を送ることになります。啓太は和泉守より４歳年少で、和泉守が18歳になるまで共に水天宮で暮らし、代々、水田天満宮の社司を務める大鳥居家へ養子に入りました。和泉守は、大鳥居家の一隅に４畳半と３畳からなる住居を建て「山梔窩（さんしか又はくちなしのや）」と名づけました。由来は、庭に山梔の木が植えられたからとも、和泉守が〈批判的な発言で罪を得たので、もう何も言うまい〉との意を込めたからとも言われています。和泉守は、弟から身の回りの世話をする者を置くようにすすめられますが、自炊の生活を続けました。しばしば水天宮の家族に手紙を送り、家族からは山梔窩に食品や日用品が送られました。

山梔窩（復元・水天宮境内）

＊山梔窩は筑後市水田に現存しており、福岡県指定文化財（建造物／昭和36 年４月18 日指定）です。

■討幕への決起■

幽閉されること約10年、ついに和泉守は討幕に決起して山梔窩を脱出、鹿児島へ走りました。島津久光の上京に同行を望み、大久保利通（おおくぼとしみち）や西郷隆盛（さいごうたかもり）に働きかけますが容れられず、鹿児島を後にします。その後、上京してすぐに寺田屋の変（1862年）に遭い、久留米に送還され、拘禁（こうきん）の身となりました。長州藩などの支援で藩主頼成から拘禁を解かれ、一時は藩命を得て尊皇攘夷のために動きます。しかし、頼成が再び佐幕に傾いたため、和泉守は久留米と訣別し、長州藩へ向かいました。

■挙兵上京■

和泉守は、山口で毛利敬親（もうりたかちか）に面会した後、再上京しました。坂本龍馬（さかもとりょうま）より先に薩長同盟（さっちょうどうめい）の必要を見通し、三条実美（さんじょうさねとみ）などに働きかけますが、「八月十八日の政変」となり、三条ら七卿を護衛して山口に下りました（「七卿落ち（しちきょうおち）」）。和泉守は毛利敬親に建白書を提出して挙兵上京を促します。翌元治元年（1864）、敬親の世子定弘が挙兵上京します。和泉守もまた、攘夷嘆願のために浪士軍を率い、長州軍とともに禁門の変を戦い、その激動の生涯を終えました。

蛤御門（禁門）の変　元治元年７月20日、京都市中で長州軍と会津軍・薩摩軍とが激戦を繰り広げました。京都御所周辺が激戦地となり、御所の門や御所のことを「禁門」と言ったことから「禁門の変」とも呼ばれます。八月十八日の政変で京都を追われた長州藩が、当時、京都の政局を主導していた会津・薩摩両藩の追い落としを図ったものでしたが失敗に終わりました。

天王山（和泉守自刃の地）　禁門の変に敗れた和泉守は、16人の同志とともに天王山に退き、翌日、自刃しました。辞世の歌を「大山の　峰の岩根に　埋めにけり　わが年月の　大和魂」と詠んでいます。17人の遺体は、始め天王山の麓まで運ばれて埋葬されますが、明治元年になって自刃の地に改葬されました。

天王山自刃の図（水天宮所蔵）

■久留米の明治維新■

久留米藩では佐幕派路線を守ってきましたが、慶応４年(1868)の不破美作(ふわみまさか)暗殺事件を機に、勤皇派の水野正名(みずのまさな)が政権を握ります。久留米藩は戊辰戦争で明治政府に功績を挙げたものの、明治４年（1871）の藩難(はんなん)事件で藩知事有馬頼咸らが処罰され、廃藩置県の断行を受けました。

明治時代になって、ようやく藩政の主導権を握った勤皇派でしたが、新政府の弾圧の対象となり、それに屈する形で、久留米藩は悲劇的な終焉を迎えました。これが近代久留米の出発点となります。

水野正名写真(久留米市教育委員会所蔵)

明治４年藩難事件　明治維新後、久留米藩内では攘夷派の勢いが強く、そこに山口藩から脱走した大楽源太郎(だいらくげんたろう)ほか３名が潜入し、反政府計画が密かに練られていました。明治４年、政府は久留米藩を処罰することを決定。３月に藩知事有馬頼咸が謹慎処分を受けると、攘夷派は大楽を誘殺し事態の収拾を図ります。しかし時すでに遅く、出動した山口・熊本藩兵によって水野正名以下100名以上が逮捕されました。正名は、大参事を罷免され、終身禁固の処分となり、翌年、青森県弘前で獄死しました。

◇眞木和泉守の生涯年表◇　※年齢は数え歳

	和暦	西暦	事　蹟	年齢
久留米藩	文化10	1813	３月７日、水天宮神官眞木家に誕生。	1
	文政６	1823	６月20日、父旋臣死去。	11
			８月21日、家督相続。「和泉正」と称する。	
	天保２	1831	春、睦子(28歳)と結婚。	19
	天保３	1832	閏11月21日、従五位下和泉守に叙任される	20
	弘化元	1844	７月、水戸へ遊学。	32
	弘化３	1846	３月、藩主有馬頼永に藩政改革意見書を提出。	34
	嘉永４	1851	この年、藩主有馬頼咸に藩政改革意見書を提出。	39
山梔窩	嘉永５	1852	藩政改革を企てて失敗(嘉永の大獄)。	40
			５月17日、水田村(現筑後市)に謹慎を命ぜられる。	
			４畳半と３畳の住居を建て、「山梔窩」と名付ける。	
	安政５	1858	10月13日、『大夢記』を草して倒幕論を述べる。	46
倒幕	文久２	1862	２月16日、水田を脱出して鹿児島に向かう。	50
	文久３	1863	８月18日の政変後、三条実美ら七卿を守り長州へ下る。	51
	元治元	1864	６月16日、三田尻(現防府市)を出発、上京。	52
			７月19日、蛤御門の変がおこる。翌日、天王山に退く。	
			同月21日、同志16名とともに自刀。	

歴史散歩No.40　眞木和泉守　平成27年３月31日発行
編集:久留米市 市民文化部 文化財保護課　住所:〒830-8520　久留米市城南町15番地３
電話:0942-30-9225　FAX:0942-30-9714　E-mail:bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp